

平成18年1月

お客様各位

株式会社 陽進堂

## 使用上の注意事項改訂のお知らせ

### 冠循環改善剤 ヨウリダモール錠 25 (ジピリダモール錠)

今般、自主改訂により下記の通り使用上の注意事項を変更致しましたので、お知らせ申し上げます。(下線部分が変更箇所です。)

今後のご使用に関しましては、下記内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

#### 記

改訂後	改訂前
<p><b>2. 重要な基本的注意</b></p> <p>(1)腎疾患への適応に当たっては、以下の点に留意すること。</p> <p>1)病態の急速な進展がみられる場合には、中止又は他の療法を考慮するなど適切な処置を行うこと。</p> <p>2)尿蛋白が減少した場合でも、腎機能が低下することがあるので、定期的に腎機能を検査するなど注意すること。</p> <p>(2)本剤投与中の患者に本薬の注射剤を追加投与した場合、本剤の作用が増強され、副作用が発現するおそれがあるので、併用しないこと。 (「過量投与」の項参照)</p> <p><u>(3)本剤との併用によりアデノシンの有害事象が増強されることから、本剤を投与されている患者にアデノシン(アデノスキャン)を投与する場合は、12時間以上の間隔をあけること。</u> (「相互作用」の項参照)</p>	<p><b>2. 重要な基本的注意</b></p> <p>(1)腎疾患への適応に当たっては、以下の点に留意すること。</p> <p>1)病態の急速な進展がみられる場合には、中止又は他の療法を考慮するなど適切な処置を行うこと。</p> <p>2)尿蛋白が減少した場合でも、腎機能が低下することがあるので、定期的に腎機能を検査するなど注意すること。</p> <p>(2)本剤投与中の患者に本薬の注射剤を追加投与した場合、本剤の作用が増強され、副作用が発現するおそれがあるので、併用しないこと。 (「過量投与」の項参照)</p>

改訂後			改訂前																								
<b>3. 相互作用</b> <b>(1) 併用禁忌(併用しないこと)</b>			<b>3. 相互作用</b>																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アデノシン (アデノスキャン)</td> <td>完全房室ブロック、心停止等が発現することがある。本剤の投与を受けた患者にアデノシン(アデノスキャン)を投与する場合には少なくとも12時間の間隔をおく。もし完全房室ブロック、心停止等の症状があらわれた場合はアデノシン(アデノスキャン)の投与を中止する。</td> <td>本剤は体内でのアデノシンの血球、血管内皮や各臓器での取り込みを抑制し、血中アデノシン濃度を増大させることによりアデノシンの作用を増強する。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	アデノシン (アデノスキャン)	完全房室ブロック、心停止等が発現することがある。本剤の投与を受けた患者にアデノシン(アデノスキャン)を投与する場合には少なくとも12時間の間隔をおく。もし完全房室ブロック、心停止等の症状があらわれた場合はアデノシン(アデノスキャン)の投与を中止する。	本剤は体内でのアデノシンの血球、血管内皮や各臓器での取り込みを抑制し、血中アデノシン濃度を増大させることによりアデノシンの作用を増強する。																					
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																									
アデノシン (アデノスキャン)	完全房室ブロック、心停止等が発現することがある。本剤の投与を受けた患者にアデノシン(アデノスキャン)を投与する場合には少なくとも12時間の間隔をおく。もし完全房室ブロック、心停止等の症状があらわれた場合はアデノシン(アデノスキャン)の投与を中止する。	本剤は体内でのアデノシンの血球、血管内皮や各臓器での取り込みを抑制し、血中アデノシン濃度を増大させることによりアデノシンの作用を増強する。																									
<b>(2) 併用注意(併用に注意すること)</b>			<b>(1) 併用注意(併用に注意すること)</b>																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キサンチン系製剤 テオフィリン アミノフィリン</td> <td>本剤の作用が减弱されるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。</td> <td>テオフィリン等のキサンチン系製剤は、本剤のアデノシンを介した作用を阻害する。</td> </tr> <tr> <td>アデノシン三リン酸二ナトリウム</td> <td>本剤はアデノシンの血漿中濃度を上昇させ、心臓血管に対する作用を増強するので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。</td> <td>本剤は体内でのアデノシンの血球、血管内皮や各臓器での取り込みを抑制し、血中アデノシン濃度を増大させることによりアデノシンの作用を増強する。</td> </tr> <tr> <td>降圧剤</td> <td>本剤は降圧剤の作用を増強することがあるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。</td> <td>本剤の血管拡張作用により、降圧剤の作用が増強されることがある。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	キサンチン系製剤 テオフィリン アミノフィリン	本剤の作用が减弱されるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	テオフィリン等のキサンチン系製剤は、本剤のアデノシンを介した作用を阻害する。	アデノシン三リン酸二ナトリウム	本剤はアデノシンの血漿中濃度を上昇させ、心臓血管に対する作用を増強するので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤は体内でのアデノシンの血球、血管内皮や各臓器での取り込みを抑制し、血中アデノシン濃度を増大させることによりアデノシンの作用を増強する。	降圧剤	本剤は降圧剤の作用を増強することがあるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤の血管拡張作用により、降圧剤の作用が増強されることがある。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キサンチン系製剤 テオフィリン アミノフィリン</td> <td>本剤の作用が减弱されるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。</td> <td>テオフィリン等のキサンチン系製剤は、本剤のアデノシンを介した作用を阻害する。</td> </tr> <tr> <td>アデノシン</td> <td>本剤はアデノシンの血漿中濃度を上昇させ、心臓血管に対する作用を増強するので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。</td> <td>本剤のアデノシン取り込み抑制作用により、アデノシンの血漿中濃度が上昇する。</td> </tr> <tr> <td>降圧剤</td> <td>本剤は降圧剤の作用を増強することがあるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。</td> <td>本剤の血管拡張作用により、降圧剤の作用が増強されることがある。</td> </tr> </tbody> </table>			薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	キサンチン系製剤 テオフィリン アミノフィリン	本剤の作用が减弱されるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	テオフィリン等のキサンチン系製剤は、本剤のアデノシンを介した作用を阻害する。	アデノシン	本剤はアデノシンの血漿中濃度を上昇させ、心臓血管に対する作用を増強するので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤のアデノシン取り込み抑制作用により、アデノシンの血漿中濃度が上昇する。	降圧剤	本剤は降圧剤の作用を増強することがあるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤の血管拡張作用により、降圧剤の作用が増強されることがある。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																									
キサンチン系製剤 テオフィリン アミノフィリン	本剤の作用が减弱されるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	テオフィリン等のキサンチン系製剤は、本剤のアデノシンを介した作用を阻害する。																									
アデノシン三リン酸二ナトリウム	本剤はアデノシンの血漿中濃度を上昇させ、心臓血管に対する作用を増強するので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤は体内でのアデノシンの血球、血管内皮や各臓器での取り込みを抑制し、血中アデノシン濃度を増大させることによりアデノシンの作用を増強する。																									
降圧剤	本剤は降圧剤の作用を増強することがあるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤の血管拡張作用により、降圧剤の作用が増強されることがある。																									
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																									
キサンチン系製剤 テオフィリン アミノフィリン	本剤の作用が减弱されるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	テオフィリン等のキサンチン系製剤は、本剤のアデノシンを介した作用を阻害する。																									
アデノシン	本剤はアデノシンの血漿中濃度を上昇させ、心臓血管に対する作用を増強するので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤のアデノシン取り込み抑制作用により、アデノシンの血漿中濃度が上昇する。																									
降圧剤	本剤は降圧剤の作用を増強することがあるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤の血管拡張作用により、降圧剤の作用が増強されることがある。																									

〈参考〉

DSU No. 146 (2006年2月) 掲載予定

お問い合わせは、担当MR又は弊社営業本部までご連絡ください。

(株)陽進堂 営業本部 黒瀬

TEL 076-465-5181 FAX 076-466-3110